

のびやか

56号



年明けから書き初めに鏡開き、節分にお楽しみ会。行事ラッシュが続き、たんぼぼ西棟は大忙しでした。「何故そんなに忙しくなるの?」と聞かれたら「使う物・食べる物は、できるだけ一からの手作りにこだわっているから」と。イベントを作り上げるところから、スタッフ・利用者一丸となって盛り上げ、楽しむ。これが「たんぼぼ西棟」なのです。

(保育士 片桐)

目次：

「障害者スポーツ」	2~3
事業所紹介	4~5
卒業生からの手記	6
入所部門	6~7
読書コーナー	7
掲示板	8

「シリーズ「障害者スポーツ」2

青い鳥医療福祉センター 療育支援課長 筒井恵二

シリーズ「障害者スポーツ」第1回目は、国内での障害者スポーツ関係組織等についてお話しさせていただきました。なかなか聞きなれない名前や、こんな組織があったの？という方もお見えになったと思います。

今回は、実際に障害児者が利用している障害者スポーツセンターについて紹介します。

(4) 障害者スポーツセンター

昭和40年頃のが国の公共スポーツ施設の多くは、障害のある人々が利用することを想定して作られていませんでした。さらに、貸館的な施設運営をしていることが多く、障害のある人々が、一人で気軽に利用できない状況にありました。

このような中、昭和49（1974）年5月、在宅の身体障害者を対象としたスポーツセンター（現 大阪市長居障がい者スポーツセンター）が大阪市に開設されました。同センターでは、個人利用に重点を置

＜全国の障害者スポーツセンター＞

No	開館年	名称	No	開館年	名称
1	1974	大阪市長居障がい者スポーツセンター	13	1991	群馬県立ふれあいスポーツプラザ
2	1981	名古屋市障害者スポーツセンター	14	1992	障害者スポーツ文化センター （横浜ラポール）
3	1983	広島市心身障害者福祉センター	15	1994	ふれあいランド岩手
4	1984	東京都多摩障害者スポーツセンター	16	1994	神戸市立市民福祉スポーツセンター
5	1984	福岡市立障がい者スポーツセンター （さんさんプラザ）	17	1996	広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センター（おりづる）
6	1985	西宮市総合福祉センター	18	1996	高知県立障害者スポーツセンター
7	1986	東京都障害者総合スポーツセンター	19	1997	大阪市舞洲障がい者スポーツセンター （アミティ舞洲）
8	1986	かがわ総合リハビリテーション福祉センター	20	1997	新潟県障害者交流センター （新潟ふれ愛プラザ）
9	1986	大阪府立障害者交流促進センター （ファインプラザ大阪）	21	1997	群馬県立ゆうあいピック記念温水プール
10	1988	京都市障害者スポーツセンター	22	1998	長野県障害者福祉センター （サンアップル）
11	1990	埼玉県障害者交流センター	23	2000	鹿児島県障害者自立交流センター （ハートピアかごしま）
12	1990	滋賀県立障害者福祉センター	24	2012	堺市立健康福祉プラザスポーツセンター

いた運営を行い、障害のある人々の生涯スポーツの実践に大きな成果を挙げました。その後、昭和55（1980）年より段階的に同様の施設が全国で開館しました。（平成24（2012）年現在24か所）

なお、各施設における運営上の諸問題等に関する意見交換や交流の場として、昭和59（1984）年に「身体障害者スポーツセンター協議会（現 障害者スポーツセンター協議会）」が発足しました。

愛知県内では、表にあるとおり名古屋市名東区に全国で2番目に「名古屋市障害者スポーツセンター」がオープンしました。名古屋市障害者スポーツセンターは、東海地域では貴重な障害者専用のスポーツ施設ですので少しその様子を紹介させていただきます。

センター内の設備は、トレーニングルーム、プール、卓球室、STT室（視覚障害者卓球：サウンドテーブルテニス）、体育室等があり、それぞれ利用

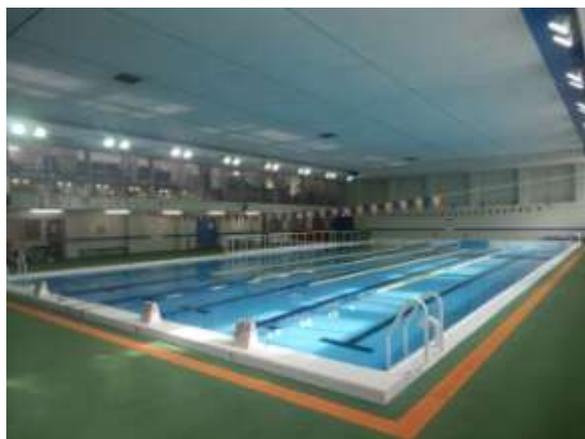
者の障害に応じたプログラムが提供されています。利用者は、愛知県内（名古屋市外）、さらには隣県からも定期的に利用している人もおり、名古屋市住に限らず利用できます。

また、できるだけ利用者のニーズに対応し、選択肢（楽しむスポーツから競技スポーツに至るまで）を広げたり、さまざまなプログラムを提供するように考えられており、どのような障害にも対応されています。具体的には、テニス、水泳、アーチェリー、ゴルフ等のスポーツ教室の開催、自由に参加できる種目別練習日や大会の主催があります。

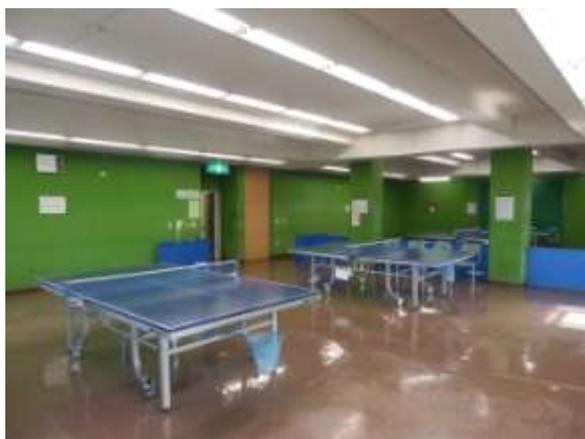
それ以外にも、障害者スポーツ医事相談として理学療法士が月に一度、スポーツに関する相談を受けていますし、障害者スポーツ用具相談としてリハビリテーション工学技師・体育指導員がスポーツや用具についての相談を行っています。

詳しくは、名古屋市障害者スポーツセンターのホームページをご覧ください。

(<http://www.nagoya-rehab.or.jp/sports/index.html>)



【プール】



【卓球室】



【トレーニングルーム】



【体育室】

麻生幸三郎先生 15年間ありがとうございました。

麻生先生は県からの派遣として、平成10年に（当時の第一青い鳥学園）副園長として赴任され、平成12年からは副センター長として、障がい児（者）の福祉・医療分野で長きにわたりご活躍されてきました。

このたびの人事異動で、平成25年4月から「こばと学園」園長に就任されることになりました。先生とかわりのある皆さまは、残念で寂しい思いをされていることと存じます。

新天地でのご活躍をお祈りします。本当にありがとうございました。



（センター職員一同）

地域の事業所紹介 Part14

NPO法人「たまごのあしあと」(稲沢市) 療育ルーム「にじいろたまご」訪問記

今回の施設紹介は、療育ルーム「にじいろたまご」(放課後等デイサービス・児童発達支援事業)や「たまあしワークス」(就労継続支援B型)他、いくつかの事業を展開している特定非営利活動法人「たまごのあしあと」です。

稲沢市ののどかな田園(?)地帯の中、少し遠くには新幹線が走るのが見え、のどかな環境の中にありました。

最初に見学させていただいたのは事業の一つ、カフェ「たまごのあしあと」です。



このカフェで提供されるランチの食材は、就労支援で無農薬野菜の栽培をしている「芽たまご農園」で朝採れたばかりの新鮮な野菜や自家製クッキーなどが出されています。

建物は木のぬくもりが感じられるログハウスです。建築材はシックハウス対応がされているということでした。テーブルやいすなどはすべて木の素材で揃えられ、ゆったりしたスペースの中に子どもが遊べるコーナーもあり、お母さんが子どもを見守りながらカフェやランチをゆっくり楽しむ雰囲気でした。洗面所におむつ交換台と手洗い場が並んでおり、最初は壁を挟んで設置されていたのが母親の視点で壁がない方が安全と意見が出され、壁が取り払われたとのことでした。食べ物だけでなく、あらゆる面で「人にやさしい」ことが大切にされていました。



次に見学したのが療育ルームで使われている建物でした。はじめに建てられたカフェの建物が手狭になったということで、カフェから徒歩数分の空き店舗を改装し利用されていました。外観はまだ改修中でしたが、中は広くここも木の素材がふんだんに使われ、あたたかな感じの中でそれぞれの目的の部屋が作られていました。



この日はいくつかある療育クラスの一つの「ムーブメント」が行われ、幼児さんを中心に子ども10人が集まりました。歌に合わせて名前呼びや自分の顔の写真貼りを行った後、ループや布、足踏み板などムーブメントで使う道具を子どもたちが思い思いに床に置き、輪の形に作っていきます。最

初は活動から外れている子ども職員の声掛けで道具を持って床に並べ自分のペースで参加していました。そして子どもが作った形の上を音楽に合わせて飛んだり歩いたりして進みます。何度か続けて行っている活動で子どもたちも遊びを覚え、それぞれの楽しみ方で参加していました。



今回の見学は理事長の野口さんからお話を伺いました。約180名の方が登録し、近隣の市町村にお住まいの方以外に、岐阜県、三重県、県内では安城市からも参加されています。また、子どもから成人された方まで、年齢層も幅広く利用されているそうです。希望される方に対して事業所は拒まないという方針で受けているということでした。

最初は子育て支援から始まった活動でしたが、小児科医との出会いが転期となり、障がいがある子どもたちが個性を生かして豊かに生きていくことができる療育の場に発展していったそうです。

どんな支援が必要かという課題に対し、行政から提供された福祉サービスに当事者が合わせるので

はなく、母の話を聞きながら始め、希望するものを作っていったという経過がありました。

取り入れている療育内容がふれあい囲碁、ボクシングなど実にさまざまな領域であることに驚き、これだけの領域の内容を職員がこなしていくことは難しいのではないかと思い質問したところ、それぞれの療育内容に対し、事業所の職員の他に講師として子どもたちと関わり支援している方がたくさんみえるとのことでした。「子どもたちいろいろな大人と関わることやいろいろな生き方を体感してほしい」「(支援者については)ハンディのある子どもたちの理解者の裾野を広げることが目的」「やってみようと思う支援者は全部仲間」という野口さんのことばがとても印象的でした。ともすれば何事も施設内で完結しようとしがちな私たち施設職員にとって、あらためて地域とつながることやエンパワメントを生かすことの大切さを思い起こさせることばでした。

今年は「たまごのあしあと」の事業を開始されて5周年という記念すべき年だそうです。「たまごのあしあと」の「たまご」とは「可能性のたまご」という意味があるとのこと。これまでの5年間、そしてこれから先も可能性のたまごたちが元気に足あとを残していけますように・・・!

「5周年 ありがとうイベント」として、4月27日、29日、5月3日に催し物が開催される予定です。関心のある方はホームページをご覧ください。
(児童発達支援課 山田)

療育ルーム「にじいろたまご」

住所；稲沢市増田北町2 電話；0587-22-5599

NPO法人「たまごのあしあと」

住所；稲沢市日下部南町4丁目32-2 電話&Fax；0587-22-5539

ホームページ；<http://www.tamaasi.com>

◇◆その他の事業◆◇

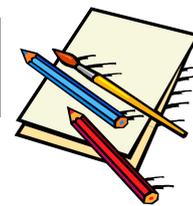
☆たまごのあしあと（からだにやさしい料理店） ☆芽たまご農園（無農薬野菜の栽培）

☆たまあしワークス（就労継続支援B型） ☆お木楽たまご（木のおもちゃ製造・販売）

☆たまあし大学（障がいのある方の学びの場） ☆ギャラリー（個展・グループ展） ほか



なのはな棟 卒業生からの手記 「～自立に向けて～」 その1



僕はマッピー（阿部真澄）です。趣味は音楽、落語、お笑い等で、1年に10回以上大阪に行っていますし、大阪大好きで住みたいほどです。

僕は施設に2歳から20歳までいました。なんか人生の1/3を過ごした日々は今でも忘れないです。

2歳から18歳までは名古屋市西区にある青い鳥医療福祉センターにいました。

僕が小5の時に、親友だったけんたろう君が他界しました。けんたろう君は青い鳥時代の1番の仲良しで、毎日ころころして野球や鬼ごっこをして遊んでいました。名古屋養護学校に行っている時に、先生に「けんたろう君が亡くなったよ」と言われ、授業中もずっと泣いていました。葬式も学校で行けず手紙を書きました。先生から「けんちゃんの分まで頑張っていきよう」と言われ、また泣き、次の日から笑顔で登校しました。あれから、僕はちょっとずつ暗くなり、音楽が友達になりました。お父さんは仕事が忙しく、あまり僕に興味がなく、叔母さんも歳をとるから「自立せなあかんなあ」と思いはじめました。

中学生の時は、叔母さんの家に帰ることができる週末が楽しみでした。美味しいご飯も食べられるし、見たいテレビも見れて自由に出来るからです。叔母さんからは「真澄は一人で生きないといかんよ」とか「パパにあまり頼らないように」等と言われていました。中2の時に反抗期に入り、「青い鳥に行きたくない」と叔母さんに言いはじめました。たぶんこの時は「施設をもう出たい。叔母さんと住

みたい」という気持ちだったと思います。叔母さんの都合もあったので言えなかったけど、本当は「家から学校に通いたい」と思っていました。施設にいと食事の時間も早いし、好きな物も食べられないし、カロリーも決まっている等本当に最悪でした。でも、美術の先生が好きになって、もともと絵を描くことが好きだったので何度も賞を取りました。先生から「真澄は本当に絵がうまいし、個性的だし、もしプロになったら俺はサポートするし、買うから」と言われ僕は嬉しかったです。今もこの先生に会いますが、「絵は書いているか？」と聞かれ、僕が「書いてない」と答えると「もったいないよ」と残念な顔で言われます。そんな時は「今の仕事をやめて絵の勉強をしようかな？」とたまに思ったりしますね。

高校生の時は、学校が嫌と思っていたり、施設でいじめにあいました。はじめて告白しますが、たしか高1の時からいじめが始まり、「お前調子のるなよ。何も出来ないくせに」とか「おい。叔母さんから金もらってこい」などと言われました。僕は普段どおり生活していたのに「なんで言われるの？」と思いつつながら青い鳥にいました。職員がいると優しくなり、無視がはじまり暴力もたまにありました。職員に言うのと倍にやられるので言えませんでした。僕はいじめがあったおかげで強くなったし、「自立をして見返してやろう」とさらに思いました。今回はこれで以上です。次号は高校生活の終わりから今現在までを書くのでお楽しみに。（マッピー）

入所部門

医療型障害児入所施設・療養介護事業所「ひまわり西棟」

ひまわり西棟では毎日のケアや療育活動を「ひのき」「もみじ」「さくら」の3グループに分かれて行っており、各グループとも季節感を大切にしてその時節にあった活動を行っております。

今の時期には天気の良い日や週末などに近くのスーパーやコンビニへ買い物に出かけたり公園へ散歩にでかけたりして、身体いっぱい風や光を受けて病棟内では感じ取りにくい季節を感じてもらっています。また、病棟内では利用者さんと一緒に色紙をちぎって桜の木を作ったり散歩に出た時に摘んできたつくしやたんぽぽなどを飾って季節感を出しています。（支援員 田口）



読書コーナー

「とんとんとん」 さく；なかのまさたか
発行；福音館書店

この絵本は言語訓練室の中でも、自閉症の子ども達に人気の一冊です。一匹のネコが『とんとん』と扉をノックし、誰もいない事を確認していきますと…。最後に押し入れから色々なものが一気に飛び出てきて、ネコが『うわーっ』とびっくりするというストーリーです。最後のページは色彩豊かで子ども達の目にも一気に色んな色が飛び



込でできます。それで怖がる子もいれば、喜ぶ子どももいて反応は様々ですが、ほとんどの場合、もう一回！とリクエストしてくれるのは不思議ですね。まだ言葉話す前で絵本はまだ難しい、あるいは1人でページをめくってばかりいるという子ども達とも、一緒に遊べる一冊です。
(言語聴覚士 青木)



